



レーサーとして鍛えた経験と腕は 僅かな異変も見逃さない—— 豊かな経験値が光る自動車整備の達人

創業70年の歴史を持ち、山梨県上野原市で、自動車整備・民間車検・钣金・塗装などを手掛ける『臼井自動車』。将来の三代目社長として事業に携わる臼井専務取締役は現役レーサーとしても活動している人物だ。その確かな自動車整備の技術は、長年レーサーとして鍛えた目と耳、感性、そして磨き上げた腕があってこそ。本日は専務のもとをタレントの野村将希氏が訪問し、インタビューを行った。



専務取締役

臼井 弘明

——『臼井自動車』さんは長い歴史をお持ち
ちだそうですね。

はい。当社は1953年に、祖父が友人と一緒に立ち上げました。当時は辺りに車が2〜3台しか走っておらず、道も砂利道だった時代。掘立小屋の整備工場で何の工具もない状態からのスタートでした。ちなみに私も幼いころから車に興味を持っており、よく家業の手伝いをしていました。家業に入ったのも工業高校を卒業してすぐの18歳。以来、約35年にわたり、仕事を続け参りました。

——臼井専務の傍には立派なトロフィーがありますが、こちらは？

実は私はレーサーとしての活動もしているんです。一見すると道楽に見えるかもしれませんが、たとえば100分の1秒を競うレースで好成績を収めることができれば、お客様に対して信用がつくと考えて始めました。ただ、100分の1秒を縮めるのは、できるだけできないもの。テクニク、マシンの整備、いかにして毎回同じように走るかなど、あらゆる要素がタイムに集約されます。また、マシンにはトラブル

は付き物なので、その懸念もあります。手前味噌ですが、私はレース当日にマシントラブルでリタイアしたことがほとんどないんですよ。ちなみに私が走行している時のピットは当社のスタッフが担当。私のレースはスプリントなので、走行の間のピット作業はなく、マシンのメンテナンスはほとんど私自身が手掛けています。

——トラブルを起こさない秘訣のようなものはあるのでしょうか。

私は普段から神経を張り巡らせており、それがマシンの安定性につながっていると思います。車に乗っている時に感じるエンジン音、ハンドリング、ブレーキのフィーリングなどの異変に対して整備をするのですが、事前に読み取ることで、トラブルがほとんど起こらなくなるのです。整備の際にも、レーサーとしての目線と耳、感性、腕でいてお客様の車の整備にあたっているんです。ですから、お客様の車が入庫した時にも僅かな異変に気づくことができると自負しています。そしてお客様よりも先に症状についてお話しすることで「やっぱりプロですね。分かるんですか？」と言われ、



ゲストインタビュー
野村将希

(タレント)

「レーサーとしての経験と技術が自動車整備に活かされているというお話を、興味深く聞かせていただきました。臼井専務はレーサーとしても整備士としても求道的で、非常に魅力的な人物と感じましたよ！」

ご信頼いただいています。常にそのような能力を持つていなければ、仮にお客様から「この音なのですが……」と聞かれても私に分からなければお客様が不安になってしまいますからね。

——まるで「車のお医者さん」のようですね！ 今後はどのような展望を？

会社を大きくしたいという気持ちは当然経営者の方々は持っていると思うのですが、大きくするだけでは意味がありません。地域に根差し、地域の方々に信用されるよう堅実に、そして地道に顧客を増やしていきたいですね。

株式会社 臼井自動車

山梨県上野原市上野原 5148